

令和 7 管理年度（令和 7 年 1 月～12 月）かたくちいわし瀬戸内海系群
漁獲可能量（TAC）の設定及び配分について（案）

令和 6 年 10 月
水 産 庁

1 TAC（案）

（1）設定の考え方

令和 6 年 5 月に開催された資源管理方針に関する検討会での取りまとめを踏まえ、下記の漁獲シナリオで算定されたABC（生物学的許容漁獲量）をTAC（漁獲可能量）とする。

（2）漁獲シナリオの概要

- ① 親魚量が令和 17 年（2035 年）に、少なくとも 50%の確率で、目標管理基準値（MSY（最大持続生産量））を達成するために必要な親魚量）を上回るよう、漁獲圧力を調節する。
- ② 当該管理年度の資源量に以下の漁獲圧力をかける。
 - ア 親魚量が限界管理基準値以上にある場合には、MSYを達成する水準に調整係数（ $\beta = 0.8$ ）を乗じた漁獲圧力とする。
 - イ 親魚量が限界管理基準値を下回るが、禁漁水準以上ある場合には、親魚量の値に応じて上記アの漁獲圧力を更に削減した漁獲圧力とする。
 - ウ 親魚量が禁漁水準を下回る場合には、漁獲圧力をゼロとする（実際の管理においては、その資源を目的とした採捕が禁止される）。

（3）令和 7 管理年度（令和 7 年 1 月 1 日～12 月 31 日）（ステップ 1）の TAC（案）

	TAC
かたくちいわし瀬戸内海系群 （体色が銀色のもの）	48,000 トン

（参考 1）資源管理の目標

- （1）目標管理基準値：43 千トン（MSYを達成するために必要な親魚量）
- （2）限界管理基準値：17 千トン（MSYの 60 パーセントを達成する親魚量）
- （3）禁漁水準値：2 千トン（MSYの 10 パーセントが得られる親魚量）

（参考 2）かたくちいわし瀬戸内海系群の漁獲実績

単位：万トン

	R4 年 (2022 年)	R3 年 (2021 年)	R2 年 (2020 年)	R1 年 (2019 年)	H30 年 (2018 年)
かたくちいわし瀬戸内海系群	4.5	3.6	4.1	3.2	3.8

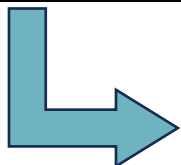
（出典：農林水産統計より水産庁作成）

2 配分（案）

都道府県別TACについては、別紙のとおり、具体的な配分数量は設定せず、TACの内数として設定することとする。なお、都道府県における管理を行う際の参考となる数量を提示する。

令和7管理年度かたくちいわし瀬戸内海系群TACの設定及び配分について(案)

	TAC(トン)
かたくちいわし瀬戸内海系群	48,000



知事管理分	
都道府県名	数量(トン)
和歌山県、大阪府、兵庫県、岡山県、 広島県、山口県、徳島県、香川県、 愛媛県、福岡県及び大分県	48,000の内数